# 慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	十六世紀ネエデルラントのカルヴィン主義 : 近世欧羅巴資本主義成立期に於ける宗教思潮
Sub Title	
Author	高村, 象平
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1934
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.28, No.6 (1934. 6) ,p.907(143)- 938(174)
JaLC DOI	10.14991/001.19340601-0143
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19340601-0143

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

分が少くなかつた。町名改正に就いての資料を東京市役所に求めたが早速得られなかつたのも遺憾であつた。此の點は他 用して、新町名に訂正する事につとめた。しかし神田區に於いては、如何とも仕方のないものがあるので其の儘とした部 芝、淺草の三區のものには、最新の地圖にない舊町名が多く出て來た。之れは最新地圖、舊地圖、又は市内電話帳等を利 日の補正を期するつもりである。

(昭和九年五月十一日)

# 六世紀ネエデルラントのカ ルヴィン主義

近世歐羅巴資本主義成立期に於ける宗教思潮

支配も、やがてはてれ等。都市貴族」と「貴族及び僧侶の同盟」との妥協を生むに至ってし 然し、この萠芽期を規定しそして特徴づけるものは、その幼萠と云ひ或は擡頭と云ふ言葉によつて容易に知り得る 期に於ける他の一面たる幼弱さを示すものでもあつたのである。と云ふのは、この都市に於ける商人代表者の市會 の都市共和制を見るならば、まさしくそれはその清新さを證するものであった。だがそれはまた同時に、この擡頭 如くい清新さと幼弱さとの二つの面を持つ階級分化でしかなかつた。即ち端的に云ふならば、不十分なる階級分化 的・平民的反對との間の背反であるし がそれであつた。例へば、その農民運動を原因として惹き起されたところの、封建領主の支配を排したフィレンツ、 らである。そして、この過程と略、同じものが、フィレンツで以外の伊太利諸都市に於いても行はれたのであった。 近世歐羅巴資本主義の萠芽期は、十二世紀乃至十五世紀の伊太利をその最も華々しき舞臺として出現して居る。 、それは殆ど上層的な一變化に過ぎぬものと化したことが顯はにされたか 一てれは市民的反對と農民

十六世紀ネエデルラント のカルヴィン主義

> 四三三 (九〇七)

にその端緒として置くに止まらしめた根源であつたのである。 らない。まさにこの事實こそ、右の伊太利をして近世資本主義成立の爲めの最初の舞臺としながら、尙とれを僅か るであらう。即ち右の都市共和制が、初期の謂ゆるブルジュア革命の十全なる様相をとることが出來なかつたこと に對しては、この場所とこの時代とに於ける階級分化が不十分なものでしかなかつたことを以つて解答とせねばな 伊太利に於ける近世資本主義の先驅が、單にその若き芽萠えのまゝでむしりとられてしまつたかの理由が不明とな 長とが、近世資本主義的生産關係の確立に貢献する基本的要求である。このことの闡明を缺くときは、何故に上記 的衰退と、新たなる經濟的發展に伴つて新たなる外衣を纏つた農民及び都市民階級の、自由獲得の爲めの鬪爭の成的衰退と、新たなる經濟的發展に伴つて新たなる外衣を纏つた農民及び都市民階級の、自由獲得の爲めの鬪爭の成 諸矛盾が深化し、これに對して資本の、即ち商業資本乃至利附資本の侵略が加へられ、從つて封建的支配者の經濟 盾相互間の闘爭によつで促進せしめられて、はじめて決定的となる。一言にして云へば、封建的生産關係の內部的 らしめる現實的地盤が十分に準備され、またこの社會的・經濟的諸事情の成熟が、封建的生產關係內部に於ける諸矛 一つの生産關係たる封建主義に對する、他の二つの生産關係資本主義の代替は、 これを可能な

的表現に基くところのものである。素よりそれが謂ゆる國民的形成であるからには、右の三つの形態を検討するな的表現に基くところのものである。素よりそれが謂ゆる國民的形成であるからには、右の三つの形態を検討するな 紀後华のネエデルラント、 とは茲で必要としないが、 十二乃至十五世紀の伊太利以外に求めねばならない。それを追ひ求めて立てられた敷多くの論證を列擧するこ れ故に、吾々は近世資本主義制度への變革が、眞に用意され醸成されそして遂に確立されるに至つた時と處と 等しくブルジーアジイ解放闘争の一段階として現はれたといふ共通點を有しながらも、 十七世紀中葉に於ける英吉利であり、さては十八世紀の佛蘭西であるといふ如く、國民 要するに近世資本主義的發展への途が確立せられたものとして指示されるのは、十六世 尚それ等は個々の色

彩を以つて色どられてゐることを看過し得ないであらう。即ちこれを端的に云へば、先づ右の中で前二者は、そ 就したのであつた。そして宗教が自分の進路の邪魔になるときにのみ、 歴史的推移が宗教的色彩を帶びて居るに反し、最後のものはさうでない。然し乍らこの相違は前二者が宗教的欲求 ある。然るに、「ブルジ"アジイが十八世紀に十分の勢力を確定し、彼等の階級的立場に適合した彼等自らのイデオ から生じたところのものであり、後者は然らずとて説明せらるべきものではない。前二者が右の如き特徴を帶びる ロギイを持つに至ると、その偉大にして決定的革命たる佛蘭四革命を、專ら法律的・政治的觀念に訴へただけで成 も彼等には舊宗敎の代りに新宗敎を置き代へようといふ心も起らなかつたのである」(1)。 は、「宗教と神學以外の他のイデオロギイの形態を知らなかつた中世」の事情に基くものと云はねばならない これを問題としたに過ぎなかつた。けれど Ø で

を比較對照するならば、明かにせられ得るところである。即ち抽象的な言葉を以つてすれば、後者の發達は前者の 資本主義國と看做され得る基本的特徴を備えたものであるにも拘らず、尚その資本主義的發達と名譽革命によつて、 居るといふ點では相似て居ながらも、 それに立ち勝つてより深刻であつた。それは名譽革命後英吉利の經濟的發達が、 ブルジョアジイ及び地主中のブルジョア的分子が勝利を得た一六八六年後の英吉利國内に於ける資本主義的發達と 駕した諸條件の究明によつて明かにせられ得るのである。またそれは民衆の運動の强度からして考察せられ得るの に平和が締結された時に於いて、ネエデルラントの統一諸州の中で最も經濟的に有勢であつたオラングが、 じでない。このことは西班牙の主權に對するネエデルラントの蜂起の長い經過の後、一六四八年遂にこの兩者の間 更にネエデルラントの國民的形成と英吉利のそれとを對比するならば、それ等が上述の如く宗教的色彩を帶びて 尚それ等が近世歐羅巴資本主義の發展上に於いて占める重要さは嚴密には同 他の歐羅巴諸國のそれを急激に凌 典型的

である。 然しそれの具體的解明は、 V づれ他にその場所を見出し得るであらうが故に、 ここではこれに觸れないで

それ故に、 資本制發展の不均等性の故に、一義的にその成立の時期を決定し得ず、茲に於いて右の如く謂ゆる國民的形成の諸 ではなく、歐維巴に於ける近世資本制成立といふ國際的・世界史的出來事の標徴たるものであつたのである。 形態を以つてこれに當てねばならないのである。 のであつた。それ故に、それ等は個々の國民的形成であるとは云ひ乍ら、 業のマニュファクチュアへの推移・更にまたこの後者の近代的大工業への出發の基礎とが確立されたことを持つも 爲めに戰ふのであつた」。しかもこれ等のそれぞれの場所に於けるブルジョアジイの勝利は、「社會の或る一定階級 勝利であつたのである」(2)。そしてそれは、その勝利を獲得せしめた經濟的地盤として、世界的商業の基礎と手工 の舊政治組織に對する勝利ではなく、それ等は、新歐羅巴社會の爲めの政治組織の宣言だつた」ことが注意せられ 合には、彼等は縱令ブルジョアジイとは行き方が違ふとは云ひ條、たじ偏へにブルジョアジイの利益を貫徹せしめる ねばならないのである。即ち「このブルジョアジイの勝利なるものは、當時にあつては、 する利益を持つわけでもなく、また何等獨立に發展した階級乃至階級部分を構成するわけでもなかつたのである。 斯くの如き相違のあることが認められ乍らも、 п レタリアト 彼等が、例へば佛蘭西に於ける一七九三年から九四年に至る場合の如く、ブルジョアジイに對抗する場 頂點に立つて居た階級であつたのである。 ブルジョアジイに屬するものではなかつた。然し、それ等の部分は、何等ブルジョアジイと乖離 從つて通常、 尚右の三つの國民的形成のいづれに於いても、ブルジョアジイは 勿論その際すべての市民並びにプロレタリアト或は前期 近世「資本主義時代が開始せられたのは十六世紀以 尚それはそれに限られた意義のみのもの 一つの新しき社會組織の

來のことである」と規定され、また資本主義社會の發展を目して、「十六世紀以來準備され十八世紀に至つて成熟 の巨步を進めた」と概括されるのである。

形態に對する闘争によつて成立し確定したものであるが、 的社會の經濟的構成から聞ひとられたものであると等しく、 的生産關係が先づ以つて國民的形成を遂げたところの、 斯かる生産關係を基幹として、その基幹の歴史的段階に照應して觀念形態が決定され、後者の擡頭も發展 すべて生産關係の動向によつて規定されることは云ふ迄もない。資本主義社會の經濟的構成が封建主義 同じくこれを求めねばならないであらう。 しかもこれもまた吾々は具體的には、右に掲げたブルジ 十六乃至十八世紀のネエデルラント、英吉利、或は佛蘭 資本主義的乃至ブルジョア的觀念形態も、封建的觀念

を張つて、 され、 部構造のものでしかなかつた。それ故にこそ、 は獨逸に於ける階級分化不十分なる經濟的構成の段階に照應し、そしてまたそれによつて規定せられたところの上 ス及び十六世紀獨逸に於ける宗教改革である。然しながらこの新しい觀念的動向は、この時の伊太利に於ける、扨て は未だ十全なる地盤を擁して居るものでは無かつたのである。勿論、ルネサンスと云ひ、宗教改革と云ふ、それが 素より觀念形態の上に於ける近世的寄與として、普通學示せられるものは、十五世紀の伊太利に於けるルネサン 步的變革であつたことに對しては何等疑ひを容れる餘地がない。然し、それが進步的であり得たのは、その現實 アラビア人から繼承し、そして新たに發見されたギリシャ哲學によつて培はれた明快なる自由思想が益々根 ゲルマニア民族は、それを大多數は直接的に投げ棄ててプロテスタント新教を採用し、他方、ロオマ人の間 十八世紀の唯物論を準備した」のではあつたが(3)、尚謂ゆるブルジ"ア的思想の成熟の爲めには、それ このルネサンス並びに宗教改革によつて「教會の精神的獨裁は破毀

が不十分な、そして幼弱なものであつたが故に、これ等進步的變革も、その後に於いて暫らく沈滯するの止むなきそれから發生し、またそれによつて規定せられて居たからであつた。しかもまたその他面に於いて、その階級分化 に至らしめられたのであつた。斯くて吾々は、近世的即ちブルジョア的觀念形態の成立とその成熟とを、生産關係 的基礎として、農民・都市民の自由獲得といふ封建主義への抗爭が置かれ、そしてルネサンスなり宗教改革なりが的基礎として、農民・都市民の自由獲得といふ封建主義への抗爭が置かれ、そしてルネサンスなり宗教改革なりが 前記の諮園民的形成の行はれた段階に、これを求めるのである。

産物では決してなかつたことと相似て居る。まさに、 また封建的観念形態の自生的解體の結果生じたところのものでもなかつた。それはブルジョア社會が哲學的思索の するものでなければならなかつた。斷るまでもなく、本源的蓄積なる收奪行程は、ブルジョア自らの行動によつて 接的の生産者を賃銀勞働者に轉化せしめるところの行程」を、その社會的・經濟的地盤とする。即ちそれは、「生産 ることであらねばならない。即ち、ブルジョア的觀念形態も、その確立の爲めには、ブルジョア自らの行動を必要と 者を生産機闘から分離せしめる歴史的行程」に基づくものである。従つてこれをその基礎的條件として規定せられ ら分離せしめるところの行程、換言すれば、一方には社會的生活資料及び生産機關をば資本に轉化し、他方には直 したのである。ブルジョア意識の發展は、教會のまたは俗界の思索家の論議によって押し進められたものではなく、 開せられたものである。そしてこのことは、この歴史的行程を反映する觀念形態の形成に對しても等しく妥當す 行動あり」と云はねばならないのであるる。 この國民的形成の歴史的時代に結びつけられた階級分化は、これまた周知の如く、「勞働者を勞働條件 謂ゆる資本の本源的蓄積の段階に照應せるものであり、それは本源的蓄積の時代の特質を反映 そしてこのことは、右に掲げた國民的形成の歴史的推移の中に於 生産關係の變革に於いても、また思想の成長に於いても、大

いて明かに看取られるのである。

そしてこの場所に於けるその時の社會的・經濟的構造の分析と關聯して、觀念形態の動向を基督教思潮の發展の上 及び英吉利と佛蘭西とに於けるそれに就いては、すべてこれを他に機會の與へられた時に讓ることを記して、 成りの紙間を要するので、 のみを以つてしては十分なる理解に到達し得るものでなく、即ち更に英吉利の、及び佛蘭西のそれ等の究明を必要 **観念形態の發展を見出し得ることに存する。而して上來述べ來つたところは、この筆者の企圖の遂行の上に一貫す** 會に先行せる封建主義社會が神學的宗教的色彩を以つて限なく色どられて居たが故に、神學的束縛と宗教的抑壓と に於ける部分しか取扱ふことが出來ない。從つて、十七世紀に於けるネエデルラシトの宗教思潮の變容に就いて、 よりの解放の中にこそ、 に辿ることを志して居る。觀念諸形態の中より特に宗教思想をとり出した所以は、旣に一言せる如く、資本主義社 そしてその具體的分析の後に於いて明かにせらるべき、原理であると同時に結論たるものに外ならない。そ 近世資本主義時代の開始期に於ける宗教思潮の役割は、ひとりネエデルラントの國民的形成に闘する考察 然しての三つの國民的形成の具體的解明の爲めには勿論のこと、ネエデルラントに於けるもののみでも可 右に述べた近世資本主義時代の開始せられた諸國民的形成のうち、先づネエデルラントのそれを採り、 封建的生産關係の解體、從つて資本制的生産關係の形成に照應するところの最も明瞭なる 本稿に於いては、この後者のうち僅かに資本主義的生産方法が導入され始めた十六世紀

- エンゲルス、ルドヰッヒ・フォイエルバッハと獨逸古典哲學の終末、改造社版全集十二卷、八九九頁。
- (2) マルクス、プロシア革命の決算、改造社版全集四卷、上三六十七頁。

**十六世紀ネエデルラントのカルヴイン主義** 

- (3) エンゲルス、自然辯證法の舊序文、改造社版全集十四卷一一七頁。
- Bürgertum und die katholische Weltanschauung. 1927. S. VIII-IX. Vgl. Bernhard Groethuysen, Die Entstehung der bürgerlichen Welt- und Lebensanschauung in Frankreich. Bd. I.

# inco National

も、ネエデルラントの農村を支配するものは、その根本に於いては、半封建的土地關係であつたと云はねばならな かつた地方には、 響を及ぼさざるを得なかつた。即ち封建經濟の特徴たる自足的生産と農奴制とは、都市生活の著しく發達した右の響を及ぼさざるを得なかつた。即ち封建經濟の特徴たる自足的生産と農奴制とは、都市生活の著しく發達した右の 生計維持には不足なる為め他に雇傭せられる者が現はれ、彼等は大農業や手工業に勞働力を供給したのである。然 諮地方に於いてその姿を消し、農民の分化は行はれて、豪農と並んで、所有地なき農民や、僅少な土地は有するも しながら、尚ネエデルラント全體に互つて農奴事情の分解が完全に行はれたのではなく、都市のあまり發達を見な ト、ドルトレヒトの諸都市を發達せしめたのであつた?シ。これ等商工都市の著しい發展は、この國の農村に當然影ト、ドルトレヒトの諸都市を發達せしめたのであつた?シ。これ等商工都市の著しい發展は、この國の農村に當然影 **發達せしめ、他方マアス河地方の金屬加工業は、ディナン、ユイ、ナムゥル、リエヂュ、メストリヒト、ユトレヒ** 形成してい、フラングプスの名と結んでよく記憶せられる毛織物業は、この國の貿易の發達を助長する一原動力であ た。その地理的條件は、この地をして西歐に於ける交易上の交會點となし、以つて中間貿易を發達せしめる機緣を り、それはヴァレンシェンヌ、カムブレェいサン・オメル、リィュ、ドゥイ、イブル、ガン、ブルッヂェの諸都市を 近世初頭、伊太利を除いた歐羅巴に於いて、最も多くの都市、從つて商工業地を有したのはネエデルラントであつ 農奴制的土地關係が可成りの程度に於いて殘存して居たのであつた。從つて十六世紀に於いて

場を極めて廣汎なものたらしめ、斯くて工業生産に從事する者の數を絕えず增大せしめて居た。十六世紀初頭以來、 れて居た。しかもこの國が國際通商の中心地であつたことは、その工業生産物の品質の優良さと相俟つて、その市 ングァス及びブラバントの織物の一部が、地方的消費に當てられて居たのを除けば、他は殆ど輸出の爲めに製造せら 遊だ大なる割合を占めたのである(4)。<br />
彼等はひとりアントワップに於いて自國商品の取引を行ふのみならず、そ 場のヴェネツィアよりの移轉、葡萄牙政府の東洋香料貿易商館の設置、或は亜米利加銀の市場となり、 背後に工業地を控へ地理的位置に惠まれ都市の自由な空氣を多分に有したアントワップであつた。ハンザ同盟の商 最も敏速に好影響を享けたのはネエデルラントであつたが、その時に當つて、その通商の中心地たり得た海港は、 この國の經濟的發達の中心地、從つて全歐羅巴商業の中心地となつたものは、周知の如くブルッデェに代つたアン 仲介取引の中心地として、更には金融の中心地としての繁榮さを與へられたのである。この卓越さの必然的結果と 商事會社や諸銀行の金融取引が營まれるやうになる等、この都市はその巧みな開放政策と外國人保護政策とによつ 館設置、伊太利の銀行の開設、英吉利マァチャント・アドヴェンチュァラスの貨物集散地としての決定、洪牙利銅市 トワァプであつた。あの新大陸の發見と東印度への新航路發見とによる國際貿易の擴大と轉換との一劃期に際して 的精神に充ち、富の追求に熱心なる冒險者を蝟集せしめた。斯くてこの地は單に貨物の集散地としてのみではなく の自國に在る商人との間にも事業關係を結んだ。またこの都市に於いて享受せられる自由は、幾多の投機的・企業 て、葡萄牙、西班牙、英吉利、南獨逸等の商人を來往せしめ、此處に居住する外國商人の數はアントワップ市民の して、アントワップはその近隣の諸地方を指導する地位を占取し、その近世的企業精神を、 世以來のネエデルラントの工業の最大特徴は、それが輸出工業であつたことである。即ち、ディナンの銅、フラ 換言すれば自由主義的 南獨逸の諸

資本家的精神を普及せしめたのであつた。

來とり來つた保護政策を犠牲とせねばならない。然しながらこのことを、傳統的方法に習熟しその視界の限られた 小ブルジョアジイに期待するのは、不可能である。當然彼等は沒落への途を辿らざるを得なかつた。 退より回復せんが為めには、ネエデルラントの諮都市に於いて傳承せる斯業の舊組織・舊製法を再編成し、 居るに過ぎずい の都市毛織物業はその存立を脅かされるに至つたのである。例へば一五四五年イプルに於いて、太物業は全く衰退 増大し、それを防止せんとするブルグンディ侯の努力も、その康價なる前には全く無效であり、遂にネエデルラント たのである。それは英吉利製品の競爭に基くものであつた。英吉利の毛織物の年々アントワップに輸入される量は し僅かに百豪の総機が運轉されて居るに過ぎないと云はれ、一五四三年ガンに於ける織機は二十五豪が動かされて しかもこの間、アントワップの繁榮の他方に於いて、フラングアス及びブラバントの諸都市は致命的危機に襲はれ 一五三七年ブラッセルには一人の染物師も居なかつたでい。しかもこの競爭に對抗し、この致命的衰

ファクチュア的形態のものであつた。まさに、ネエデルラントは英吉利製織物に競爭し得んが爲めに、英吉利に於 いて行はれたと同じ産業形態上の轉化を經驗せねばならなかつたのである。尚またこの織物業と時を同じくして轉いて行はれたと同じ産業形態上の轉化を經驗せねばならなかつたのである。尚またこの織物業と時を同じくして轉 れは、それまで諸都市の諸特權行使によつて歴伏せしめられて居たのが、いまその束縛を解かれたからであつた。 く、資本の侵蝕的影響下に在る形態が行はれたのである。それはもはや昔日の手工業的形態のものではなく、マニュ しかもこの農村織物業は舊來のギルド制によるもののみではなかつた。それと相並んで、そしてそれに比して數多 然し、この都市織物業の衰退に代つて、十六世紀の三十年代から農村に於いて織物業の急激なる進步を見る。 リエヂュ、ナムゥル、 エノオル等に於ける鐵鑛業や石炭業がある。 またフランダアスに於ける絨氈

落せる都市小ブルジョアジイと共に、農村工業勞働人口を形成し得たのであつたが、やがてその過剰となるに隨つ ずることになったのである。 工業的形態を以つてしては到底營むことを得なかつた多額の設備を必要とする産業部門であり、 土地喪失と彼等の浮浪者への、原傭勞働者への轉化である。かくて冀に規定した半封建的土地關係からの脫化が生 はにせられる許りではなかつた。蓄積資本は、その捌け口を農業そのものにも當然見出した。その結果は、農民の 濟的發展に應じた新組織の下に於ける企業であつた。然し乍ら、資本の農村への侵蝕はひとり農村工業に於いて顯 に至つた産業部門であつた。それ等は、或はギルド的束縛から自由な新産業部門であり、或は舊來の手工業・家内 それはたべ資本の好餌となる以外に遁路はなかつたのである。 ウッデナァルのリンネル工業があるCeioとれ等もすべて資本に從屬せしめられて特に急激に發達する しかもまた農村工業の勃興時にあつては、これ等の農民も、都市工業の衰退に基く没 すべては時代の經

匠が、尚特權的地位にあつたくて、 第一に、都市に於ける特權賦與による産業の獨占はもはや過去の時代のものでしかなかつた。都市に於いてはその は謂はゞ都市貴族に等しく、ギルド代表權を獨占し、保護の蔭に利益を吸ひとるもの、他は下層、これは謂はゞ家 人口の給養に當る者のみが、即ち肉屋、麵麭製造者、鍛冶屋、轆轤師、指物師、桶屋、大工、靴屋、馬具師等の工 いづれの地方のギルドにも内部的對立とその深化とを招來せざるを得なかつた。即ち、一はその上層、それ 狭隘なる地方的市場の保持に努力し、その身分的秩序の嚴格なる固守に只管努めたのである。しかもこのこ この經濟革命期に於ける都市人口は、資本家的諸關係の侵蝕によつて如何なる影響を受けたであらうか。 親方と仕事を分け持ちそして待遇せられては居たが、その生活狀態の改善の望みは全く奪は 而してギルドを形成する彼等は、農村工業の壓倒的勢力の前に、その残存せる作業

れてしまつて居たもの、そしてこの二つのものの間に於ける對立である。

れるに至り、都市は全く少數の特權所有者によつて左右せられて居たのであつた。 ち嘗て十四世紀に於いて平民の努力によつて都市の全人口に廣められた市民權は、いまやその極めて一部分に限ら 彼等の過去のそれによつて秤量されて居り、或る産業部門が衰へようと榮へようとこれを代表するギルドは、嘗て 一變したこの十六世紀に於いて、それは全く貴族主義的性格のものとなり變つて居たことは當然の成行である。即 獲得せられた権利を永久的に享受して居たのであつた(8)。 にも拘らず織匠ギルドは市會に於いて舊來の絕大なる權力を保持して居り、都市行政上、各ギルドの占むる地位は、 何等變更を加へられるところがなかつたからである。例へばガンに於いてこれを見れば、その織物業の衰退ありし 切の政治的特權や様々の制限が不滿であつたのである。と云ふのは、十四世紀以來、市民權保有の資格に就いては **法權力への參加とが必要であり、彼等はこれを要求するのであつた。從つて彼等には貴族やギルド親方の有する一** 有者であり、金融業者であつた。彼等にとつては、その經濟的勢力に應じた社會的地位と、都市行政の支配及び立 そして彼等はブルジョアジイの中で最も富有であり且つ最も勢力あるものであつた。彼等は大商人であり、船舶所 活動を増大しつくある新産業があつた。これは企業的精神に充ちた謂ゆる新興ブルジュアジイの營むところであり、 この他方に於いて、斯くの如き特權に包まれたギルドに對して、都市には、輸出貿易の進展に伴つて絶えずその この制度不變のまいに、しかもその周圍の事情の全く

居た。この後者に對しては、 浪されるやう放置せられて居たのである。 この調ゆる新興ブルジョアジイの支配下には、財産なく特権なき賃銀勞働者がその搾取の手に委ねられて 都市當局も國家も一様に何等顧みるところなく、彼等は全くその運命の命ずる儘に翻 この封建的團體及び市民的團體の圏外に在つた彼等の多數は、强制せら

約するならば、それは舊時の封建的ギルド社會の沒落分子と、萠芽し始めた近代的ブルジョア社會に於ける、未だ の賃銀の引上げも、物價騰貴の影響の一部のみを償ふに過ぎなかつたのである。いま一四六七年乃至一五六〇年の であつたと云ふことが出來よう分の彼等の存在こそ、封建的ギルド的社會の解體の生ける徴候であつたのである。 **發達するに至らないで漸く擡頭し始めた許りのプロレタリア的-**だことは共通して居た。斯くの如くに、謂ゆる都市庶民は極めて雜多な要素から成つて居たのであるが、 と化したものとしては、没落せる市民があつた。そしてこれ等の孰れに於いても烈しい經濟的窮迫の中に生を營ん であったい。斯かる市民権を與へられて居なかつた都市居住者の多數の他に、この謂ゆる庶民に屬し一介の勞働者 を一〇〇とせるものである(11)。 ミュンスタア管區に於ける物價指數と賃銀指數とを次に示さう。 命であつた。ネエデルラントに於いては、この世紀の半ば頃からその影響を蒙り始めた。しかもこの結果として 等の蒙れる經濟的弱乏を特に强めるにあづかつて力あつたものは、十六世紀に於いて歐羅巴全體を襲つた價格 また農村から職を求めて都市に流入せる者であり、それは全くの浮動的人口を形成す 先づ物價指數から見るならば、 これ等はいづれも一四六七 -前期プロレタリア的-- 要素との結合せるもの これを概

十六世紀ネ	牧畜副產物		荷(	<u>E</u> ffi	
エデルラントのカ	八九	- 00	儿儿	八八	1巻1-10年
ルヴィン主義	一 一 -占	- 0 0	<b>=</b>	<u></u> 0-	1至1110年
		10四	_ -6	<b>=</b>	1至1—吕年
			一三四	一景、	1至1—四年
	<b>31.</b> O	一四七	四		1番1一番年
五五(九一九)	一六五	一 六 二	======================================	一七九	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一

十六世紀ネ	木 挽 夏期	大工職人 { 夏期 大工職人 { 夏期		<b>府勞動者~</b>	不 コ 職 人 (冬期	i Q	方	根職	<b>松匠親方</b>	人及	煉瓦積職人。夏期			<b>6</b>		大亡 歳人 (夏期
エデルラントのカ	<b>t t</b>	多期		九一				九六			八四		八 〇	八江	八四	八元
ルヴィン主義			九七	九二				九九九					八儿	九三	八七	八四
	and the second s			<u>.</u> O				一九	 O #L	九三	八六	44	八 五.	七七	六九	七四
		O #	七五	七五		七七		八九九	- 0 =	八四	堂	八	八〇	八一	六〇	·七
<b>J</b> L.	二九九			七七			一 〇 七	八一	八八八	九四	八六	儿儿	八〇	儿	七九	八 O
五七(九二			占二	七九				八七	100	九三	八六	七四四	八六	八五	七六	七六

工 1	次に、聲樂 各 織 靴 麥 建 魚 鹽 螺 木 鳥 鹽 螺 木 鳥 鹽 螺 木 鳥 鹽 螺 木 鳥 鹽 螺 木 鳥 鹽 螺 木 鳥 鹽 螺 木 鳥 鹽 螺 木 鳥 鹽 螺 木 鳥 魚 魚 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
	T 最初 九 一 八 九 八 九 八 九 九 〇   〇 版 五 四 一 四 二 八 七 九 六 四 一   〇 げ
	るもの ここ
七三七三年	がれる。 ニュー ニュー ニュー ニュー 八世 ニュー 八世 ニュー 八世 ニュー 八世 ニュー 八世 ニュー 二元 八世 〇二二二二二 二世 田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田
七八七四四四十	以外に - 一一一一一一一一一一八八郎 - 八二〇四八二八八一〇八二十七七十八八二十七七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十
그는 것 모든 것 (	
七四七四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	

鉄工	微工		日傭勞働者〈賈	石工職人 夏	十大大
		拁	夏期	珋	紀ネエデル
The state of the s	七九		九八	七八八	
	八八八	10四	二 元 ズ	Am you be well	ルヴイン主義
	七四	九七	九七		
	八五.	八八	$\vec{\underline{o}}$	八六	
	<i>]</i> L	İ		=	
	二 :: 心		一四七	一二四	五八八九三二

右の中、最後の織工と鋏工との賃銀のみが個數賃銀であり、他はすべて時間賃銀である(12)。

何等質效を齎らすものではなかつたのである。事質それ等は屢、可成りの狂暴さを伴つたのであるが、 めて短時日の中に鎖定されて終ふのであつた。 を妨げ、 年以降に於いて瀕發したのである。然し乍ら前述の如く、彼等はあらゆる關係に於いて無産であり無權利であつた。 しかも彼等が極めて雑多の要素から構成されて居たことは、 てこの不平は屢、暴動の發生にまで導いたのであつた。特にこれは價格革命の影響を實際に體得し始めた一五五〇 斯くの如き物價と賃銀との間に於ける上騰テムポの相違は、彼等をして不平を抱かしめるに十分であつた。そし またその相互の間に組織を結成することを阻止した。從つてそれ等數多くの暴動も、その結果に於いては 少くともその當初に於いては、共同利害の意識の發生 いづれも極

けねばならない。先づ一部分の貴族は、新しい經濟條件に順應して、實際惠まれた經濟的地位を利用し、 部分の貴族は、殆ど經濟に從事せず、古い牛封建的な關係を維持して、國王の寵愛や氣輕な宮仕へによつて裕稿に と密接な關係を結んだのであつた。彼等は、ブルジョア的な空氣とイデオロギイとに染んだのである。然るに他の 以上の他に尙吾々は、資本主義的諮關係の侵入による支配階級內部の分解作用の一分野として、貴族の解體を舉以上の他に尙吾々は、資本主義的諮關係の侵入による支配階級內部の分解作用の一分野として、貴族の解體を舉

ならうと考へ、收入の多い教會の職務に就いたのであつたい。

た。このことは、宗教思潮の如何なる變化のうちに現はれて居るであらうか。 のであった。斯くの如くに中世傳來の階級の地位は變革した。そして新階級が舊階級と相並んで存立したのであっ 斯くの如き新しい階級關係こそ、十六世紀の謂ゆる經濟革命當時に於けるネエデルラントに見られるところのも

- -) Earnst Baasch, Hollandische Wirtschaftsgeschichte. 1927. S. 1-3.
- 2 Review. Vol. II. No. 1, p. 31. H. Pirenne, The Place of the Netherlands in the Economic History of Mediaeval Europe. in: The Economic History
- (3) 東部地方に於いては、十七世紀及び十八世紀の前半に於いても隷農が多數存して居た。(Bassch, op. cit S. 50)
- · börsen und Finanzkrisen des 16. Jahrhunderts. 3. Aufl. 1922. S. 5-8. Richard Ehrenberg, Das Zeitalter der Fugger: Geldkapital und Kreditverkehr im 16. Jahrhundert. Bd. II. Die Welt-
- Henri Pirenne, Belgian Democracy: Its Early History. Trans. by J. V. Saunders. 1915. pp. 205-6.
- (c) Ibid., pp. 208, 209.
- ~) Ibid., p. 210.
- (∞) Ibid., p. 213.

一國々に於いて、十六世紀の前半程、浮浪者の數が多かつたためしはない。これ等の浮浪者の一部は戰時になると軍隊に参 加し、一部は田舎中を乞食して廻り、他の一部は都市に於いて日傭勞働及び未だ同業組合組織の出來て居ない仕事によつ べて無數の權利によつて閉ざされて居た社會に於ける封建制の沒落によつて、當時、甚しく增大した。すべての發展せる Ibid., p. 212. 一定の生計の途、或は定つた住所の無い人民大衆は、如何なる生計の道も、如何なる生活分野も、す

十六世紀オエデルラントのカルヴイン主義

一五九 (九二三)

|糊口をすごして居たのであつた。(エンゲルス、ドイツ農民戰爭、政造社版全集四卷、二九〇頁)

- エンゲルス、前掲頁。
- Georg Wiebe, Zur Geschichte der Preisrevolution des XVI. und XVII. Jahrhunderts. 1895. S. 383. Ibid., S. 335-8. より算出。
- ボクロフスキイ監輯、山田幸夫譯、初期ブルジョア革命史、二四―五頁

題となったからである。 世紀のネエデルラントに於いても、何等異るところはなかつた。即ちそれは、その時代に於いて分化せることが漸 び政治理論は、同時に主として神學的異端たらざるを得なかつた」(こ)。このことは、いま吾々が顧みつゝある十六 建制度に對して向けられた一般的攻撃のすべては、特に敎會に對する攻撃は、即ちあらゆる革命理論、社會理論、及 最も一般的な總括者及び裁可者としての、敎會の地位から生する必然的結果であつたのである。これを以つて、封 く顯はとなつた舊階級や新階級やの利益及び要求が、宗教的外衣の下に隱されて、そして宗教的な旗印を掲げて問く顯はとなつた舊階級や新階級やの利益及び要求が、宗教的外衣の下に隱されて、そして宗教的な旗印を掲げて問 の下に留まつて居たのである。斯くの如き知的活動の全領域に於ける神學の優越は、同時に、旣存の封建的支配のの下に留まつて居たのである。斯くの如き知的活動の全領域に於ける神學の優越は、同時に、旣存の封建的支配の の力を持つて居たのである。獨自の法律家階級が樹立した後に於いてすら、法學は尙依然として永い間神學の後見 に從つて取扱はれて居た。「教會の教義は同時に政治上の公理であり、聖書の文句は孰れの裁判所に於い て も法律中世の文化は、周知の如く、根源的に神學的性質のものであつた。そのすべては神學に於いて行はれて居た原則 聖書の文句は孰れの裁判所に於いて も法律

マルティン・ルウテルがカトリック教會の教義や憲法に反對して始めて起つたその翌年、 はやくもネエデルラン

社會征服に對する彼ルウテルの態度は、宗教の商業化に對する彼の態度と同じであったのである(こ)。彼は既存の 教會の精神的弛緩は憎んだが、自分と從屬との原理を有する社會的階級組織を受け容れたい。それは國家にも、 れはその前の二世紀間の商業的發展を異数主義に再び陷つたものとして斥けるものであり、商人や金融業者による 態に就いての漠然たる概念であり、一部分は到るところに傳播して居た商業文明に對する一般的抗議であつた。そ ルウテルの教説の基礎は一部分は聖書であり、一部分は人々が未だ富によって墮落せしめられて居なかつた自然狀 あつた。然し乍ら、周知の如くにルウテル主義は、その本質に於いて中世的社會理論の一變形に外ならなかつた。 する傳統的教義の繰り返へし、或は高利問題に對する・教會法學者が利子と質料徴集權購入とに分つて實際的必要 また社會にも反抗するものではなかつたのである。然しての保守主義にも拘らずし 會から離れてこのルウテル主義を信奉するに至ったのである。 トに於いては、國際都市アントワップにその主義が導入され、次いでこの地から各地方へとそれは廣められたので ブルジョアジイを入れる餘地の無いものであったにも拘らず、ネエデルラントのブルジョアジイは、カトリック教 に譲歩して居たことの咎め立て等の中に容易に見出すことが出來よう 一、そしてまた彼の見た基督教社會は新興 一それを吾々は、彼の價格に關

基督教的正義即ち自由を作り出すに當つて如何なる影響でも及ぼすものは絕對に無い。生、正義、基督教的自由に 會そのものをも不必要ならしめるに至ったのである。教ひは、心に現はれる思麗の作用によって、そしてそれのみ あるらったの言葉はルウテル直系の人々によつて强調され論理的に押し進められて、善行のみならず聖禮典や教 は、一つのもの、そしてたゞその一つのもののみが必要である。それは、神の最も神聖な言葉、即ち基督の福音で と云ふのは、ルヴテルは説く。「確かに、外部的事物の中には、それ等が如何なる名義を以つて呼ばれようとも、

十六世紀ネモデルラントのカルヴィン主義

廢を欲求して居たブルジョアジイによつて容易に受け容れられるところとなつたのである。 利用した生産物と競爭することを餘儀なくせしめられていてれ等に對して不滿であり、排他的な僧侶階級制度の撤 教會制度は全く無益なものに過ぎない。それを有することなくとも、基督教徒は、聖書と自分自身の良心の中に、 る教義は、當時カトリック教會によつて様々な宗教的義務と束縛とを課され、またその僧院の享有する租稅觅除を **申世的な慈善や、友愛團體や、托鉢教團や、祭典や、巡禮は拒否される。莊麗な、しかもその反面に於いて煩雑な** によって與へられるのであるから、個々の鰈魂ととれを作る神との間に介在して居たところの、宗教組織の全構造 **十分な案内者を持つて居るのである。日く、「私は何をも要するのではなく、私の信仰で十分なのである」(G)。斯か** 神から委ねられた教職政治、體制的諸活動、諸制度に しは、行ひの宗教の冒瀆的な些事として棄て去られるい。

ブルクに急激に擴まった。g)。その教義の單純さと、その啓示的神秘主義とは、教會と國家との二重の抑壓の下にあ ポフマンによつて一五二九年ニムデンに齎らされて後、それは直ちに北部諸州に、ブラバント、フランダアス、リュ 做し(8)、全然カトリック的要素を一掃し現存社會關係を打破して使徒時代の自由を囘復せんとする、そして意識的 上に、平等と正義と愛と慈善とのみが在る新エルサレム王國が建設せらるべきととであつた。而してその歌ばしき れたところは、貧困と抑壓とが存し社會的區別の上に基かれた旣存社會は破壞せられねばならぬこと、その廢墟の 體驗的要素のみを重んじ、從つて無自覺的な小兒洗禮を無效とし再洗禮の必要を說くものであつた。メルヒオル た。それは再洗禮派と呼ばれるもの、チュウリッヒに於けるツウィングリの改革運動を以つて尚不徹底なるものと り、經濟的不安定の裡にあつた下層市民のカトリック教會反對の氣運にまさに投ずるものであつた。彼等が教へら この永く保持せられ來た傳統的信仰が一度破壞せられるや、更に他の激烈なる敎義の誘入を惹起したのであっ

將來と彼等が現在營む生活のみじめさとの間の著しい差異を顧みた彼等にとつて、縱令ホフマン自らは暴力行使を 望すべきではなく、例を以つてこれを建設せねばならぬと呼ぶに至つたことであつた。邪まなるものは根こそぎに 説くことなかつたとは云へ、やがて神の國に近づかんが爲めにこの手段に出づべきことはたゞ時間の問題でしかな され、新エルサレムの城壁はそれ等の血を以つてかため著けられねばならぬ。僧侶を倒せ、そしてまた現存する一 かつた。しかもこの動向に一五三三年來、油はそくがれた。それはヤン・マッティスが、もはや神の國を徒らに待 宗教問題の域を遙かに逸脱した性質のものと化したのである台。 切の制度を去れ、と説かれるに及んで、その狂熱的運動はミュンスタアを中心として極點に達し、それは單なる一

五年には再洗禮教徒を死刑に處す旨の布告が發せられた。そしてその年六月ミュンスタアの陷落を期として、 隣人の愛と個人の自由とに基き原始基督教復歸を目的とする穩順な信仰に改變し始め<br />
たのであるfi>。然し乍らそ のこと、新教徒さへもがこれに加はつたのである。政府は索より壓迫を加へた。ミュンスタアの攻閣と共に、一五三 と慎重さとを教へるものであったにも拘らず、尚未だ不完全なる。資本主義の論理(eine recht unvollkommne Ethik スト・バインスの近業に従へば、利得機會とその利用に對しての不斷の注視、その財産の管理に當つての責任意識 の轉化にも拘らず、尙長らくそれはルウテル派と共に、カトリック王フィリップ二世の禁ずるところとなつて居た。 の革命的企圖は終りを告げたのであつた。と云つて再洗禮派が消滅したのでは全然ない。然しての時以降それは、 彼等に反對するものは、封建的關係の分子・後れた地主・自作農民・ギルド職人等より成るカトリック教徒は勿論 この時以降約一世紀に亘つて、ネエデルラントのカルヴィン派教會によつて説かれた教義は、然し乍ら、エルン 斯かるうちに、大約五〇年代に於いて、ネエデルラントには、新たにカルヴィン主義が普及し始めたのであった。

なく、神慮に對して不信と驕慢とを意味するが故に、これは拒斥されたのであつた合う。 シ主義信奉者の營利努力を抑止したのであつた。甚だ强い願望や意欲は、それが道徳的危險の源となるからのみで められなかったので無く、それは生活必要の標準によって制約されたのである。即ち欲求充足の原理が、カルヴめられなかったので無く、それは生活必要の標準によって制約されたのである。即ち欲求充足の原理が、カルヴ るべきものであり、その後に於いて始めて私利追及の手段であつたのである。とは云へ私利の許さるべき高さは定 はなく、また営利義務は甚だ制限されたのであつた。即ち職業 (Beruf)は、先づ第一に隣人の愛の手段として扱は des Kapitalismus)と認めざるを得ないものであった合うと云ふのは、その大要を摘記するならば、先づカルヴィン 主義者の無限なる義務として、不斷の勤勉なる勞働が說かれたのであつたが、然し休みなき勞働が要求されたので

る社會であつた。GD。 従つてそれは、祈りによってのみでなく、努力及び勞働によるこの世の聖化、即ち行動によつ 神に受け容れられる奉仕に身を捧げることを、同時に意識するところの冷靜な真面目さを以つた人々が、富を求め て居るのである(E)。斯くの如くそれの理想とするところは、忍耐强い勞働によつて自己の品性を訓練することと、 とを意識して居る人々によつて遂行され、その全構造は嚴格な且つすべてを包含する規律によって墮落から防がれ の國でなければならない。其處では、個人的諸義務は、自分達は常に偉大な監督者によつて見られて居るといふこ 徒の任務は自己の個人的生活を訓練するに在ると共にい聖化された社會を創造するに在る。教會、國家、社會は、 來の要求と做されたところの嚴格な干渉主義と總括さるべきものに外ならなかった(i)。カルヴィン主義者にとつ 個人的救ひの手段になるとか、基督教徒の現世的必要に仕へるとか云ふ許りであつてはならない。それはキリスト て、世界は神の尊嚴を表示するぞうに定められ、基督教徒の本分はその目的の爲めに生活することに在る。基督教 斯くの如くネエデルラントに入り來つたカルヴィン主義の最初の形態は、トオニイによつてカルヴィニズムの水

て求めらるべきものである。それは個人的功績を無視するにも拘らす、 退だ質践的であった(T)。

たものであつた「B)。 この故に、カルヴィン主義は、主として都會に於ける運動であつたといふ特徴を備えるのであ 常然のものと考へて居る生活であつたのである。即ち彼等の教えは、斯かる狀態に適用され得んが爲めに工夫され も亦、生活を道徳化しようと闘心したのであつたが、その場合對象となる生活が謂ゆる商業文明の諸特徴を以つて 務を個人の良心に投げかけることが<br />
第一の問題であつたのである。 等にとつでは、この合理的な利潤が を免れたところの、交易及び金融の利潤を、勞働者の所得や地主の地代と同じ水準に置いたのであつた合め。たじ彼 て經濟生活を見ることなく、また中世の神學者によつて或はルウテルによつて、turpe lucrumとして辛うじて非難 これは斷るまでもなくルウテルと著しき對照を爲す相違である。彼等はルウテルの如くに農民や神秘家の眼を以つ **川及び銀行業、大規模の商業及び金融、その他質業生活の實際的諸事實に對する腹藏なき認容から出發した(ヨ)。** 的な要素を形成して居た階級に向つて語ったのであった。その場合、 カルヴィン主義の指導者は、經濟生活を道德化しようとする宗教の要求を放棄したのでは決して無かつた。彼等 即ちその指導者は、その教えを勿論排他的にではなかつたが、尚第一に商工業に從事して當時に於ける最も進 一自然的正義と神の誠めによつて定められた量を超過しないやうに注意する義 彼等は當然のことながら、資本の必要、

で最も政策的部分であったことは斷るまでも無い。そしてまた彼等の間に普及したことは、當然のことながらい 者間に、即ち當時の企業家、大商人の間に擴まつた。それ等の人々が當時、ネモデルラント・ブルジュアジイの中 然と妥協した態度の爲めに、カルヴィン主義は他の國々に於けると同じく、 斯くの如き教義は、近世初頭の經濟的繁榮さに對するその嚴格な干渉的態度にも拘らず、尚その周圍の實際的必 ネエデルラントに於いても特に商工業

所に於いては普及されなかつたのであつた。 的分子にも及んだのであつた。然しこの反面に於いてギルド職人には及ぶこと尠く、封建的土地關係の支配的な場 等の支配下にある下層市民にも擴播する契機を爲した。しかもこの教義は、それのみに止まらず、貴族の中で青年

- エンゲルス、前掲、農民戰爭、二九五頁。
- (A) R. H. Tawney, Religion and the Rise of Capitalism: A Historical Study. 1926. pp. 91, 89.

Gruppen. (Gesammelte Schriften Bd. I.) 1923. S. 575-7. ることを主張するものに、ヴェバア、トレルチがあることは人の知ることであらう。 Aufsätze zur Religionssoziologie. Bd. I. 1922. S. 63-71.; Ernst Troeltsch, Die Soziallehren der christlichen Kirchen und ルウテルの非資本主義的態度にも拘らず、その謂ゆる俗人主義のうちに、資本主義的精神に遼展すべき崩芽の存す - Vgl. Max Weber, Gesammelte

- 3
- (4) Ibid, p. 97. より引用。 く呼ばれるために須要なものが何であるかといふことを知りたい。この際言ふ迄もないことであるが、外的なものは何り らし與へるのは、それとは全く違つたところのものでなければならぬ。何故ならこれら上に述べた凡ての事、行ひと生活 體に於いて何時も行はれることの出來るやうなあらゆる善行を爲すとしても、同じく無益である。靈魂に義と自由とを齎 ても無用であり、聖器物を扱つてもそれと同じく、また身體によつて祈禱をなし斷食し巡禮し、その他身體によりまた身 聖職者のするやうに神聖な服裝を着けたところで、靈魂に取つて何の助けにもならない。身體が教育や聖所に在つたとし またその反對の害悪も束縛も、之等は何れも身體的でも外的でもないからである。・・・・・・さればたとひ身體が司祭者や いふ名義の下にあるにせよ、決して人を自由にもしないし義ならしめることも出來ない。何故といふに人の義も自由も、 Ibid. p. 97. より引用。——「ここに我々は、内面的な靈的な人を取つて、これが義なる自由な基督者でありまた斯Towney, op. cit. p. 93.

は何も存しない。・・・・・神は諸君が諸君自身から、言ひ換へれば諸君の滅びの中から脱れ出ることの出來るやうに、諸 それは他の如何なるものをももはや必要たらしめない。・・・・・・かやうに大なる恩惠を與へる言葉とは元來如何なるもの くことは出來るが、神の言葉なしには他の何ものを以てしてもその役には立たない。けれども若しそれを有つて居れば、 **靈魂は、それが生存し義であり自由でありまた基督者であることの出來る所の天にあつても地上にあつても、聖なる福音、** 祈蘼せず、上に擧げた偽善者の爲す行ひを凡で缺いたとしても、靈魂に取つて何の障害にもならないのである。……… 生ずる外何の意味も現はれないだらう。反對にまた身體が穢れた服裝をなし、穢れた場所に住み、食らひ飲み、 とは「邪悪な人」欺瞞者と僞善家と雖ども之をもち且つ行ふことが出來るし、また斯様な事によつては、單なる僞善者の と言うてゐる通りである。(石原謙譯、ルター、基督者の自由、岩波文庫、二六十二九頁) 由にされるであらうと。それは聖パウロがロマ書第一章に『義とせられたる基督者はただその信仰によりてのみ生く』・・・ の罪は赦され、凡ての滅びは克服され、かくて汝は正しく眞實に平和に義とされ、凡ての誠めを充たし、凡てのものから自 く、汝は竪固な信仰を以てキリストのうちに自己を委せ、敢然と彼に信頼すべきである。然らばその信仰の故に汝の凡て 君の前にその愛する子イエス・キリストを立て、その活ける慰めある言葉によつて諸君にかく言はしめ給ふのである。日 であるか、また之を如何に用ひたらよいか。・・・・・それは福晋書が包括してゐるやうなキリストについての説教の外に キリストの説かれた神の言葉の外には、その所有するものは何もない。・・・・・・競魂は神の言葉以外のあらゆるものを缺

- 5 Tawney, op. cit. pp. 97-9.
- 8 石原譯、前揚書、四〇頁。
- Bd. I. S. 30. A. Conrady, Geschichte der Revolution vom niederländischen Aufstand bis zum Vorabend der französischen Revolution

- (の) タウェングリル就い口は、Vgl. Heinrich Wiskemann, Darstellung der in Deutschland zur Zeit der Reformation herrschenden nationalökonomischen Ansichten. 1861. S. 71-4.
- Pirenne, Belgian Democracy. p.
- Ibid., pp. 223-4.
- Ibid., p. 224.
- Ernst Beins, Die Wirtschaftsethik der calvinistischen Kirche der Niederlande 1565-1650, 1931. S. 72.

- 13 Ibid., S. 71.
- 14 Tawney, op. cit. pp. 112-8.
- (1) Floid, P. 105.
- (T) Ibid., p. 409.
- (19) これに就いては、カルヴィン自身の次の言葉を顧みれば十分であらう。曰くて如何なる理由があつて、何故に實業か 何處から生ずるのか。」(Tawney, op. cit. p. 105. より引用。) らの所得は土地所有からのそれよりも大きくあつてはならないのか。商人の利益は、彼自身の勤勉からでないとすれば、 · 通問なるから、 ではいかき事事はない
- (육) Ibid., p. 105.

# [19

総裁 はないている はなければれる ないないあい

上述の如く、概括的にネエデルラント・カルヴィーズムの勢力範圍が規定されるとは云ふものの、そのブルジ"ア 

著しいものであつた。そしてことに結成された反西班牙運動は、また反カトリック運動の色彩を帶びるに至つたの 班牙カトリック王の政策があつた。それは特にフィリップ二世に於いてその度を强めた干渉政策である。この である。斯くの如く、カルヴィン主義は新興ブルジョアジイにとつて全く利益ある福音と看做されたのであつた。 審判者としてこれを正當付け、またその**苛酷さより生するそれ等の間に於ける不滿も同じ方法に類つて抑止したの** ある勞働者、手工業者の懷柔手段としたのであつた。それ等に對する無制限なる搾取も、カルヴィニズムの教義を すものであつたことを示すものと云はねばならない。これを端的に云へば、この敎義を以つて彼等はその支配下に ならない。即ち商人にとつて企業家にとつてカルヴィニズムを縱令表面的にせよ信奉することは、彼等に利益を齎 つて無縁なものではなくして、却つてそれが彼等の存在を强める作用を與へるものであつたことの擧證でなけれ して、實際は無宗教であつたものも尠くなかつたのである。こ。然し乍らこのことは、カルヴィニズムが彼等にと カトリック教徒も依然として少數でなかつたのであり、例へばロッテルダムの大商人ヨハン・ファン・デル・フェッケ ジイにとつてその存在の確立の爲めには、何よりも先づコスモポリタン的な空氣が必要であつたのである。それ故 である。と云ふのは、アントワップの繁榮の原因としてこの都市の自由が擧げられて居るやうに、新興ブルジョ 商工業は甚だ大なる打撃を與へられた。例へばこの政策の一端として現はれた西班牙海運業保護の如き、その最も は結局西班牙支配階級の利益を第一として嚮導されたものに外ならなかつた。これによつて當然ネエデルラントの ンの如き、その著名なるものに属する。また新興商業階級の中にも、表面はカルヴィン主義を奉じてゐるかの如く これに加ふるに、この教義が商工業地方の商人や企業家の間に擴まつた他の原因として、 イの全部がカルヴィニズム歸依者であつたといふのでないことは勿論である。即ち上層ブルジ"アジイの中には、 渉政策である。この政策・彼等の存在を脅かす西 ば

教に反對する宗教に加はる自然的傾向が、彼等の間に存したのであつた(?)。 ここに於いて、この教義が彼等の間に 勢力を占めたことは當然と云はねばならないであらう。 に、通商上の理由からして、異教徒糺間の行はるゝ如きは全く反對であり、從つて異端糺間の苛酷なるカトリック

とのことが、教會の經濟倫理の世俗化運動の根源であつた。それはすべての教會が直面せねばならぬ問題であつた 部變容によつて彼等を受容することは、新教と舊教とを問はずそのいづれに於いても遂行されたのであつた?? 然るにその實勢力は到底これを無視することを許さぬところの甚だ人なるものであつた。それ故にこそ、敎義の一 階級の要求に應じて必要なる限りの譲步をその教義の上に行つたと見るべきものであらう。若しこのブルジョアジ その近業の全部に亘つて論證せる如く、理想型をたてんが爲めにヴェバアが試みた謂ゆる社會學的方法に基く結論 イが無視せられ得る程の勢力しか有しないものであつたならば、宗教思潮の變容は行はれることなかつたであらう。 たものであるとは云へないであらう。寧ろ資本家の階段の勃興に直面して、その勢力が増大し行くのに直面した宗 を有するものではないからである。如何にもヴェバアは問題提起者として、その業績に郷かしさを加えて居る。そ 來有名となつたテエマの繰り返へしであるかの如く考へられてはならない。と云ふのは、筆者は、 してまた新教の經濟倫理が謂ゆる資本主義精神に影響を及ぼしたことは確かである。然しそれがこの精神を形成し と、歴史的事象の發展を具體的に究明する一般經濟史家の研究とを、同一地盤に置いてその是非を論ずる如き意圖 然し乍ら、このことは、「プロテスタンティズムの倫理と資本主義精神」といふマクス・ヴェバアの割期的勞作以 尚も傳來的の支配的地位を維持せんが爲めに、そしてまたその勢力を擴張せんが爲めに、新興 п バアトスンが

説くものでしかなかつた。そしてその後に於いて、この教義は資本主義に適應するやろに發展し轉形したのであつ 於いても真實であつた。即ち大約十七世紀中葉までは、バインスの云ふ如く、尚それは不完全なる資本主義の倫理を と決して同一でないことを論證した功績が顯はにされるのである。このことはネエデルラント・カルヴィニズムに 易や商業は發展したと云はねばならないと、ロバアトスンは説いて居る(s)。然し、ネエデルラント・カルヴィニズム **ゐるのであるけれど、これは後者の爲めに前者が生じたのではなく、カルヴェン派教會の存在にも拘らずこの國の交** 神の意志と調和し且つ一般の利益を目指す場合に始めて意味あるものとなったのであった。即ち alliis inserviendo た。それは遼奉せねばならぬ現世的義務であつた。然し乍ら勞働するだけで十分なのではなくして、その勞働は、 に一言したところであるが、以下に於いてこれを檢討するに必要なる限り、その敎義の若干を採り上げて見よう。 はその初期の形態に於いては、如何なる程度に於いて不完全な資本家的なものであつたのであるか。その大要は旣 るところの例へば高利貸の如き職業、同朋に背德を奬めて利益を得る娼樓やカバレエの經營者、或は俳優・職業的 Deum glorificare の質現可能性とそ、職業の合法性の標準たるものである。それ故に他人の困窮を利用して營業す 譽な職業とされたのである。然し乍ら進步的神學者によつて所與の諸關係への適應が企てられ、職業の評價に際し 舞踏師・奇術師の如き娛樂を以つて勞働となし觀客を墮落せしめるもの、扨ては海賊の如き、これ等はすべて不名 まさに、ことに本稿の最初に掲げたところの、行動の第一次性なる命題の宗教思潮上に於ける具體的例證が横は その説くところに従へば、職業勞働 (Berufsarbeit) は人間の原罪に對する刑罰として命ぜられて居るものであつ またことにこそ、トオニイが英吉利に於ける新教、特にピュッリタニズム自體が、その初期の形態と後期のそれ それ故に、ネエデルラントの經濟的發展は、十六世紀中葉に於けるカルヴィン主義の普及と期を同じらして

中のいつれも、他に比してより高く評價せらるべきものでなく、同様に僧職も、通常、他に立ち勝つた職業である とは考へられなくなつたのであった。この て、社會的必要と利益とが規準となされるに及んで、右の如き職業に差異を附することは消滅じた。從つ工農工商の

企業の破綻によって全く破産することを避ける為めに、資本家はその貨幣を一つの企業に投ずべきでなく、各種の の注意を拂ふべきことが言はれた。例今は、十分な擔保なしに金錢を貸すことは義務忘却であると做されたのであ 企業に分割投資すべきととが助言されたのである。更に貪欲に陷ることなく、しかもひとは無益にして不適當なも ねばならない。節度を以つてその保持に當り、合法的に増殖を計らねばならない。そして特に商業に對して、最大 者たるものでなく、彼は神によつて委ねられたるその管理者たるに過ぎないのである。従つて彼は倹約して處理せ の不注意によつて損害を蒙つた者は忠實さの缺けて居るものと做された。じかも人間は財産を獲得してもその所有 理すべきである。斯くの如くにして利益を得た者は神に忠實なることの現世的顯示であると看られ、 然し乍らこの過度の緊張の他に、怠慢もまた許されなかつた。即ちその孰れにせよ、極端を避けて職業勞働を行は 且つ最も緊張せる勞働、例へば日曜日の勞働や夜業の如きは、基督教徒の生活內容を形づくり得ぬものであつた。 に注意し、賢明に且つ巧みにあらゆる提供せられた利得機會を利用し、また最大の注意を拂つて獲得せるものを處 ねばならぬ。基督教徒は、喜びと企業心と熱心なる勤勉とを以つてその仕事に從ひ、彼自身の利益を他者のそれ以上 であり、彼等はその職業を、富まんが爲めに遂行すべきでないとされたのであつた。それ故に、中絶するでとなき カルヴィン主義者にとつて、その經濟的活動の任務は、隣人の愛と欲求充足の原理によって規定せらるべきもの 財産を失る憂れある活動、偶然によつで利得なり損失なりが定まる活動の一切は避くべきものであつた。また

居宅等々に對しては、すべて金錢を投ずることを許されなかつたのである?つ。 に對して支出を爲すことを抑止すべきであつた。また奢侈的浪費と耽溺、華美なる祭禮、高價な衣服、宏壯なる

前にあったことを意味して居るのであり、そしてまたそれは右の宗教思潮の上に既に現はれて居るのであった。 教會至上主義が濃く織り込まれて居ることに注意が注がれて、以つてこの時代のネエデルラント・カルヴィニズム 欲求充足の原理によつて營利努力が抑制されて居る點が注目されて、更に、この敎義の中に封建的傳統たる謂ゆる するものと云はねばならない。然しまたこのことは、當時のネニデルラントが完全なる資本主義の段階への一步手 主義的社會の確立にまで到達して居なかつたこと、尚未だ十分に封建的地盤を殘して居たものであつたことを反映 經濟倫理は、「完全なる資本主義倫理」と云ひ得ざるものである。それは確かに當時に於けるネエデルラントが資本 は「未だ不完全なる・資本主義倫理」と認められて居るのである。 ントに於ける初期カルヴィニズムの特徴を形成する教義であつた。そしてこの全體を通じて流れて居るところの、 斯くの如くに職業勞働による收益の管理と使用との實踐的諸方策が說かれたのであつた。これ等は、ネエデルラ 如何にもその外部に現はれた限りに於いては、この

つたと云ふことが出來るであらう。そして更にこれを裏書きするものとして、このネエデルラント・カルヴィン派 格の決定を侵犯するところの呪ふべきものとして禁じた。然しそれ以外には『貨幣の退藏は貨幣所有者が利益を自 神學者が徴利問題に對して採った態度があるのである。簡單に云へば、彼等は過度の高利の要求は、これを公正價 つ教義は、この時代が資本の本源的蓄積の段階にあつたことを部分的にではあるが、然し明瞭に反映せるものであ けられて居ることである。この特徴は斷るまでもなく、資本の蓄積の一要素たるものである。即ち斯がる主調を持 と云ふのは、右の教義を一貫する主流として直ちに認められることは、そのすべてが勤勉と倹約とを以つて色づ

めの要具として使用されたのであつた。こ。 不滿を表現する手段として政治的領域に移された。そしてそれはネニデルラント・ブルジョアジィ解放の闘争の爲 て、それを反映して、資本の本源的蓄積の時代にまさに照應した觀念形態であつたと云はねばならないのである。 それ故にこの宗教思潮は、その根據とせる十六世紀ネエデルラントの經濟的地盤が過渡的段階に在つたことからし K さへ云つて、利子徴收を認めた。そしてそれは更に義務であるとさへ看做されるに至ったのである(8)。斯くの如く ら放棄することに等しく、それは愚行といふべきものであり、また道徳的見地からすれば許容し難きことであると 斯くの如く概説されるネエデルラント・カルヴィニズムは、襲に再洗禮派によつて道付けられたところの、社會 ĵ これ等神學者の説くところは、蓄積を妨ぐるものはすべて神の名に於いて罪であると做されるものであつた。 Baasch, op. cit S. 然しそれ等の經過の叙述はこれを他の機會に俟つことにする。

- (a) H. M. Robertson, p. 174. Aspects of the Rise of Economic Individualism : A Criticism of Max Weber and his School, 1933.
- 3 Vgl Groethuysen, op. cit. Bd. H Die. katholischen Kirche und das Bürgertum. 1930. S. 10-1
- 4 Beins, op. cit.
- 5 Robertson, cit.p. 173.
- 6 Beins, op. cit. s. 29, 28, 30-1, 33-4
- 3 Ibid, လ 40, 43-4, 44.5.
- 8 Ibid, လ 62, 64.
- Pirenne, Belgian Democracy. ָט 225.

(昭和

九

7年五月十

八日調)

# 最 近

機服再生産表式について―総田學士に答ふ - (經濟論第 三/機服再生産表式について―総田學士に答ふ - (經濟論第 三/規服再生産表式について―総田學士に答ふ - (經濟論第 三/

古共譯 労判 五〇米現代經濟學概觀 シ

「理論經濟學」

米社會經濟さ統制經濟

\*貨幣諭

號、昭和九•五、一三—五二頁) \*Beker, M.: Die industrielle Differential-Rente. 62 S. Mannheim Ha II., Diss. von 1932. 0 c

\* Elster, Studie. Jena. 1934. 66 S. M 3,80 Principles of "Volksvermögen". Eine erkenntnistheoret. Bert

ব

\* Grijiott.-Kretschmann, New York. 1933. 600 p. \$ 3,20. Lo stato comse soggetto

economico, 1933. 42

\*Hodgson, J. G.: Economie nationalism, New York 1933. 208

最近經濟文献

昭和九·五、一○○-リカルドオの比較的

一二二夏

(九三九)